

イベント情報

昭和の電動遊具に乗ってみよう

開催日：毎週日曜日（11月3.10.17.24、12月1.8.15.22、1月5.12.19.26、2月2.9.16）
 開催時間：13:00～15:00 開催場所：2階多目的室2
 昭和生まれの新幹線型電動遊具に乗ってみよう！乗車記念に当館オリジナル硬券をプレゼント！
 （お1人約30秒程度の乗車、原則小学校3年生まで） ※事前予約不要、参加費無料
 ＊急きょ運休する場合があります（運休の際は当館の公式Xでお知らせします）

〈ギャラリートーク〉学校給食の変遷とデパートへの「おでかけ」

開催日：毎月第3土曜日（11月16日、12月21日、1月18日、2月15日）
 開催時間：14:00から30分程度 開催場所：2階多目的室2
 学芸員が展示の見どころをご紹介します。 ※事前予約不要、参加費無料

〈ワークショップ〉レトロデザインのカードづくり

開催日：12月7日（土）
 開催時間：①10:30～11:30、②14:00～15:00 開催場所：1階多目的室1
 クリームソーダ柄のレトロデザインのポストカードや、雪だるま柄のクリスマスデザインのポストカードを作ってみよう！ ※事前予約不要、参加費無料（材料がなくなり次第終了します）

〈コラボ企画〉あの頃の Coppé パン販売

開催日：不定期（会期中の11・12月、4回程度）
 販売店舗：トキワ荘通りコマワリキッチン（詳細は当館のチラシ・SNSでお知らせします）
 パンにこだわるサンドイッチ専門店『Picnic Basket』とのコラボ企画です。

学校生活体験コーナー

開催日・開催時間：開館日・開館時間に準ずる
 開催場所：2階多目的室2
 ランドセル、学生カバン、マジソンバッグなどの学校用品の体験や、顔出しパネルで記念撮影をしてみよう！

【アクセス】

電車の場合：西武池袋線 椎名町駅・東長崎駅より徒歩13分
 都営大江戸線 落合南長崎駅より徒歩8分
 バスの場合：都営バス[池65・白61・練68]
 または国際興業バス・関東バス[池11] 南長崎二丁目より徒歩3分
 ※当館には駐車場・駐輪場がございません。
 （駐輪場はトキワ荘マンガミュージアム駐輪場をご利用いただけます。）

トキワ荘通り昭和レトロ館
 （豊島区立昭和歴史文化記念館）



HP



所在地：〒171-0052 東京都豊島区南長崎3-4-10
 TEL:03-3565-6991 FAX:03-3565-0061



学校給食



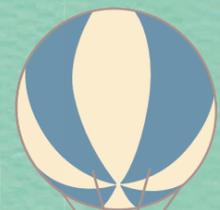
①



②



③



デパート大食堂

令和6年度 トキワ荘通り昭和レトロ館企画展 あの頃の給食と デパートでお子様ランチ

令和6年11月1日(金)～令和7年2月16日(日)

【開館時間】午前10時～午後6時(入場は午後5時30分まで)

【休館日】月曜日(祝日の場合は翌平日)、年末年始(12月29日～1月3日)

【入場料】無料(1階マンガビットは有料)



体験コーナー



④



⑤



⑥



⑦



屋上遊園地

画像：①昭和30年代の給食献立サンプル(学校給食歴史館蔵)、②西巣鴨小学校給食風景(1947年 天津正路氏提供)、
 ③昭和40年代の給食献立サンプル(学校給食尾歴史館蔵)、④クリームソーダ食品サンプル(豊島区立郷土資料館蔵)、
 ⑤ナポリタン食品サンプル(豊島区立郷土資料館蔵)、⑥東武百貨店屋上遊園地(1962年 高木進一氏提供)、
 ⑦お子様ランチ食品サンプル(豊島区立郷土資料館蔵)

ごあいさつ

1954（昭和29）年5月30日に学校給食の根拠法として制定された学校給食法は、2024（令和6）年で70年を迎えました。日本人の多くが学校での給食を経験してきたこととなります。小学校・中学校時代の給食について、「あのメニューが美味しかった」という良い印象を持つ方がいる一方で、「身体が拒否反応を起こすメニューがあった」、あるいは「先生の給食指導が厳しかった」など、負の印象を持つ方もいると思います。学校給食をめぐるエピソードのひとつつたつは、皆さんお持ちなのではないでしょうか。

一方、戦後から高度経済成長期（昭和30～40年代）にかけて、首都圏をはじめ、都市部やその周辺に居住するおもにサラリーマン家庭では、週末に家族揃ってデパートへ「おでかけ」し、買い物とともに階上の大食堂で食事をとり、屋上遊園地で遊ぶことが、娯楽のひとつとして浸透していました。幼い頃デパートの大食堂で、お子様ランチに初めて出会った方もいらっしゃると思います。

今回の企画展では、おもに昭和30年代以降の学校給食の変遷と、デパートをめぐる娯楽に注目し、展示を構成しました。展示の中心となるのは、昭和時代（1926-89）のほぼ真ん中にあたる高度経済成長期ですが、昭和・平成・令和と世代を超えて楽しめるようなしなかけも用意してあります。完全週休二日制が社会に定着するはるか前、デジタル技術、インターネット社会、SNSの普及とは無縁ながら、時間（とき）の流れがゆるやかな、心地よさを感じる時代にみなさんを誘います。

2024（令和6）年11月1日

トキワ荘通り 昭和レトロ館
（豊島区立昭和歴史文化記念館）

I ああ懐かしの給食メニュー

日本で最初に学校給食を行ったのは、1889（明治22）年、山形県鶴岡町（現鶴岡市）の私立小学校で、これは家庭の経済的困窮による欠食児童を対象にしたものでした。大正時代（1912-26）になると、学校給食は栄養面も考慮されるようになり、昭和戦前期には国の政策として奨励され、全国に広がっていきます。その後、日本はアジア太平洋戦争に突入、敗戦による物資不足により、学校給食は一時的に途絶えます。

学校給食が再開したのは1946（昭和21）年、占領軍からの食糧供出やアメリカの民間救援団体「ララ」からの援助などで賄われました。同年12月、都内の学校で初めて実施された学校給食のメニューは、ダイコン、ニンジン、サケ、マカロニが入ったクリームスープでした。当時の給食は、補食給食と呼ばれるもので、米飯などの主食は、各自が自宅から持ってくるようになっていたようです。

豊島区では、1947年に占領軍からの物資、都からの配給品、学校ごとに購入した食料により副食を中心とした学校給食を実施し、その後、1950年には区内小学校で完全給食が実施されています。一定の年齢以上の方は、主食となったコッペパンや揚げパン、すこぶる評判の悪かった生ぬるい脱脂粉乳、クジラの竜田揚げといったメニュー、またアルマイト製の食器、先割れスプーンを思い出すかも知れませんね。

1954年の学校給食法の制定から今年で70年。そのむかし、欠食児童への対応から始まった学校給食は、今や子どもたちの健康増進、学校生活の充実、食育の理解など様々な役割を担っています。今回の展示が、世代を超えて学校給食のあれこれについて考えるきっかけになれば幸いです。



①明治22年の給食献立サンプル
（おにぎり、塩鮭、菜の漬物）



②昭和30年代の給食献立サンプル
（コッペパン、ジャム、脱脂粉乳、鯨の竜田揚げ、せんきゃべつ）



③昭和40年代の給食献立サンプル
（ソフト麺のカレーあんかけ、牛乳、甘酢あえ、チーズ、果物）



④昭和60年代の給食献立サンプル
（ビビンバ、牛乳、キムチ漬物、ヨーグルトゼリー、スープ）

※②～④の年代は学校給食歴史館の展示解説表記年代と若干異なります
（画像①～④：公益財団法人 埼玉県学校給食会 学校給食歴史館蔵）

II デパート大食堂の記憶

戦前期から戦後・高度経済成長期にかけて、首都圏をはじめ、都市部やその周辺に居住するおもにサラリーマン家庭の子どもたちにとって、デパートへ「おでかけ」することは一大イベントでした。週休二日制が社会に根付く前、大人も子どもも土曜日の午前中は仕事や学校がありましたので、家族揃ってデパートへ出かけられるのは、日曜日、あるいは祝日、夏休み、年末年始などに限られていました。

デパートへ到着した子どもたちは、おもちゃ売り場で品定めをし（買ってもらえれば超ラッキー）、大食堂で日常の食事では口にできないものを食べ、屋上遊園地でいつもの公園にはない遊具で遊ぶ、という至福のひとときを過ごしました。一方の大人たちは、買い物を楽しむと同時に、大食堂での食事と、屋上遊園地で子どもたちの遊びにつきあうことで家族サービスを果たしました。

デパート大食堂の特徴は、何と言ってもメニューの豊富さでしょう。和食・洋食・中華・スイーツ・飲み物まで幅広くありましたので、その日の気分に合わせてショーウィンドウに並んでいる食品サンプルをチェックし、金券売り場で金券を購入、案内されたテーブルに着くと、お水を出してくれた店員が片手で器用に金券を半分にもぎるのを眺め、半券をテーブルに置くのを確認したら一段落。まわりをキョロキョロしているうちに注文した食事が届き…。待ってました！ 楽しい食事会のはじまり、はじまり…。

このコーナーでは、両親と子ども2人の4大家族が、大食堂で思い思いのメニューを注文していることを想定し、食品サンプルを用いた食卓を再現しました。今となっては珍しくなってしまったデパート大食堂のワンシーンをお楽しみください。



⑤お子様ランチ食品サンプル



⑥ナポリタン、クリームソーダ食品サンプル



⑦ラーメン、餃子セット食品サンプル



⑧寿司、吸物セット食品サンプル

（画像⑤～⑧：豊島区立郷土資料館蔵）

III 屋上遊園地はワンダーランド

デパートの屋上遊園地は、1903（明治36）年に日本橋白木屋呉服店の店内に木馬やシーソーなどを設置したことに始まるとされています。その後、松屋浅草店の屋上で、ゴンドラや観覧車など動く遊具を配置したスポーツランドが1931（昭和6）年に開設され賑わったことから、以降多くのデパートではこれをまねて屋上遊園地が作られました。東京ディズニーランドが開設されるはるか前の時代の話です。おもちゃ売り場、大食堂、屋上遊園地がセットになっているデパートへ家族揃って出かけることは、当時の子どもたちにとって待ち遠しい一大イベントでもありました。

さて、戦後池袋駅周辺は、西武、東横（のちに東武）、東京丸物（のちに池袋パルコ）、三越（現ヤマダ電機LABI | Life Select池袋店）など、次々とデパートが開設されていきます。そして、各デパートには特徴ある屋上遊園地が整備されたようです。「三越よりも丸物の屋上遊園地の方が面白かった!」という声を、当時子どもだった頃の思い出話として聞くことがあります。これは、背景の写真が示すように、三越のクラシカルで「静的」な遊具よりも、丸物の機械仕掛けで「動的」な遊具を多くの子どもたちが好んだということを示しているようです。

昭和・平成・令和と時代が推移する過程で、人々の働き方や生活スタイルも変貌を遂げていきます。また、休日の過ごし方や娯楽のあり方、通信販売やネットショッピングの普及により、デパート自体の存在意義が問われるようになります。同時に屋上遊園地もその規模を縮小、あるいは廃止を余儀なくされ、常設しているデパートの屋上遊園地は全国で5か所に過ぎないということです（令和5年11月現在、朝日新聞調べ）。



画像：⑨丸物百貨店屋上遊園地(1962年 高木進一氏提供)、⑩丸物百貨店屋上遊園地(1962年 高木進一氏提供)、⑪東武百貨店屋上遊園地(1962年 高木進一氏提供)、⑫昭和の電動遊具（高津装飾美術株式会社蔵）